

特集 夏休み自然体験キャンプに参加して

今年で54回目を迎える夏休み自然体験キャンプ。開催地や活動班の種類を見直しながら、これまで多くの子ども達や保護者に参加していただきました。参加の目的や動機、活動内容も異なるため、それぞれの感想は千差万別ですが、共通しているのは、言葉の一つひとつに、私たちが育てる会の活動のねらいや原点が表現されていることです。ここ二年間はコロナ禍により実施できていませんが、過去の活動から、子ども達、送り出した保護者、実際に参加した保護者から寄せられた感想をご紹介します。

※開催地や活動名が現在では変更になっている活動班があります。

●参加者の作文より

飯シックになった僕

サバイバル班 小6男子

今回はじめてのサバイバル班。リーダー達がいても、やっぱり不安でした。でも「自分のことは自分でやる」

を目標にした。このキャンプは、とても楽しく面白く、最高でした。

僕は、サバイバル班で昔の人がどれだけ苦労したかをよく思い知りました。「僕だと生きていけない。」と思ったくらいです。

僕の印象に残ったことはいっぱいあります。イナゴ、

ヤゴ、ドラム缶風呂、ホタル……。イナゴとヤゴは、素揚げでバリバリと。正直言つてあんなにおいしいと思いませんでした。ドラム缶風呂は生まれて初めて入りました。あの気持ちよさは今でも思い出せます。ホタルもはじめて見ました。幼虫だったけれどきれいでした。あと、ホタルの幼虫があんな形だと知ってびっくりしました。星もきれいでした。まだまだいろんなことがありました。

今回の目標は……できたと思います。そして、今度の目標は「人の役に立つ」です。今度のキャンプも頑張りたいです。本当に最高のキャンプになりました。おもしろかったです。

ついでに僕はホームシックにならず、飯シックになりました。

ねぶくろに入った私もむし

南信濃班第1期 小5女子

私は、生まれてはじめて、ねぶくろに入りました。なかは、すつごくあつたかくて、いいかんじでした。

でも、なんか、青いもむしになった気分で、ああ、いもむしつて、こんななのか。と思いました。いもむしになってみて、いもむしになっちゃいました。バンガローでねぶくろに入つて、とーつても楽しかったです。

きれいだつたホタルの光

南信濃班第1期 小4女子

センターの近くに、ホタルを見に行きました。最初は、あまり多くはないと思つたけど、とてもたくさんいてよかったです。わたしが分かったところも、友達が教えてくれました。つぎの日の昼にも、ホタルを見ました。光つていなかったけど、わたしの洋服にもとまつたから、うれしかった。

心に残つたドラム缶ぶろ

南信濃班第3期 小4女子

ドラム缶ぶろにはじめてはいったときに（下は、あつくないかなあ。ちょうどいいかなあ。）と思つていた

けど入ってみたら、とてもきもちよかった。外は雨がふっていたけどおゆの中につかつたら、ぜんぜんつめたくかんじませんでした。少しの間だけつかっていたけれどとてもきもちよかったです。その後セクターの中のおふろにはいったけれど、ドラム缶ぶろのほうがいいともきもちよかったです。こんどきたときも、ドラム缶ぶろに入りたいです。

雨の中のシチュー作り

自然研究班 小5男子

畑でシチューに入れる材料をしゅうかくしてから、シチュー作りに、ぼくたちの班はやる気まんまんで、ほかの班よりさきに火をおこすためのかまどを作りました。

まずシャベルでほり、次に石を周りにおき、そしてまきなどをあつめました。やつとできて、遊び終えた時、雨がポツリ、ポツリと少しだけふってきました。最初は少しだけだったけど、だんだん大ぶりになってきました。そして、集合のこうれいがかかりました。

集合した内容は、雨なので移動するという内容でした。ぼくは、心の中では反対だったが、大雨の心配もあったから、移ることにした。「雨がふらなかつたらなく」なんてことは頭には入れず、必死に石などをはこんだ。

やつと移動し終わって新聞紙をかぶせ、はんごうに米を入れ、火をおこそうとしたその時、なんとすぐ大雨になり、タープの中に雨がふきこみ、新聞紙がしけていて、火がつかなくなりました。

ぼくは、かばんに入っていた新聞紙を持ってきて火をつけました。そしてはんごうができた。ぼくは、学校ではんごうをやったことがあったので、すぐできた。

そして、最後にシチューのルーなどを作り、火の番をした。野菜が多かったせいか、シチューにみえなかった。でも味をしたらおいしかった。

そしてシチューをごはんにつけてたべたらおいしくて、「すぐくがんばつてよかったな」と思いました。シチュー作りはすぐ楽しくて思い出になると思います。

心動かされる体験を共有して

ふじみファミリー自然体験 母親

「あと何日寝たら育てる会に行くの？」

5歳を過ぎたばかりの娘には、途方もなく大きな数を指折り数えながら、ずつと楽しみにしていた富士見でのファミリー自然体験。申し込みをしてから50日間の間、この夏の活動のために彼女なりの小さな準備をしてきました。リーダーと一緒にお風呂に入りたくて、「お姉さんシャンプー」（頭の上からお湯をかけて）を練習したり、ふとんをたたむことを覚えたりと、自立と依存の間を行ったり来たりの娘にとつては小さくとも大きな一歩だったと思います。

すらん山荘で過ごした四日間は、途中雷に遭つたりしたもの、たくさん自然の恵みに触れることができました。特に夜の森を散策するナイトハイクは、親の私も心臓が小さくなってしまうほど（普段は凄く大きいはずなのですが!）正直に言つて怖かったです。娘は、森の出口で出会ったホテルが印象深かったようで、最近何を見ても、「カワイイ」としか言わ

ない娘が、手のひらで光る一匹のホテルに息を潜めながら「きれい」とつぶやいていました。そういえば都会には、深い感慨を持つて「綺麗だね」と心から言えるものが子どもの周りにどれだけあるのだろうか、ふと考えさせられました。

一人っ子で、スローペースな娘ですので、普段の生活では親として心配の種が尽きません。子どもの心の宇宙は果てしなく、言葉がどこまで子どもに響いているのか不安になることもたびたびです。日々の忙しさの中で、時には親の瞳が曇り、子どもの宇宙に輝いているであろう個性が見えていないことがあるかもしれません。

三度の食事を始めとして、「消費」というパイプでしか親子が繋がれていないといわれる昨今、こうして日常を離れて親子で自然体験活動に参加し、心動かされる体験を共有することは、大きな意味があると思っています。何にも代えがたい心の財産として子どもの中に蓄えられると信じています。

「のほん娘」に辛抱強く、暖かく接してくださったスタッフの皆様、活動に参加されました方々、本当に

お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

去年触れなかったカエルや虫は少し大丈夫になったようでしたが、今年はずらん山荘のトイレに一人で行かれました！活動終了早々に、来年の目標ができてしまいました…。

テレビ大好きな私が…

やさかファミリー自然体験班 母親

小学四年生の長男、Yのゲーム好きを改めたくて山村留学に興味を持つようになりました。いきなり長期というのは唐突すぎるので、今回の短期の活動に初めて参加させて頂きました。

まず、最初の難関は今まで持ったことのない程の荷物を背負って出発することでした。いつもの荷物は車に積むか、宅配便を利用してある私達にとって、荷物を自分で持ち、自分の足で歩くことが最初の一步でした。かなりの重さのリュックを、強がっているのか、軽々と背負って足早に歩くYをちよつと頼もしく感じながら八坂のセンターを目指しました。

到着してからは、親子別行動が子離れ親離れのいい練習になったり、盛り沢山の活動内容で自然を満喫させて頂くことが出来ました。

一番の思い出は、ナイトハイクで見た満天の星空です。今にもこぼれ落ちてきそうな星屑には目を見張りました。初めて天の川を見ることも出来て感激です。やっぱり自然は宝の山ですね。

また、驚いたことに私達は四日間、ゲームは勿論、テレビさえ見ていなかったのです。テレビ大好きな私が最終日までそのことに気付きもしないで…。物があふれる時代ですが、本当に必要なものは数少ないのかもしれない。これからは、もっとシンプルに生活していけそうです。お蔭様で色々な発見がありました。

さて肝心のYですが、今回の体験をただの旅行としか思っていない様子で、長期の留学は難しそうです。でも、活動の中でYは生き生きとしていました。あの輝いた笑顔を見る為に、これからも親子で自然を体験したいと思います。

●参加者父母のアンケートより

楽しみを見出す底力

幼児低学年の山村生活班 小1男子母親

解散後、行きは持つのを嫌がった重いリュックを家に着くまで当然のごとく自分で背負って帰りました。数日間で大きな成長があつたんだと感動！とにかく楽しかったようで、次に参加するときは何をやるかともう考えているようです。一番楽しかった川遊びの事は早速絵日記に書いていました。

初めて会う子供たちとスムーズに共同生活をおくれるか心配でしたが、リーダーの報告で個々の活動や友達に対しても積極的にとりこんでいたと伺いホッとしてました。子供には楽しみを見出す底力がある事を教えて頂きました。

親子で同じ体験を

やさか山村2期 小4女子母親

私自身、27年前、八坂に短期で行ったことがあります、

とてもいい思い出がつくれたので、今回本人にすすめました。

帰りの電車の中で、次から次に楽しい話を聞かせてくれました。私立の小学校に行っているので、近所に友だちもおらず、夏休みもつまらなかったようですが、八坂に行つて友達もでき、本当に楽しかったようです。

ご飯の配ぜん、残さず食べるなど、親がいくら口をすっぱくして言つても改まらなかつたことができるようになって、びつくりしました。共同生活によつて学ぶ力はすごいと思いました。

ママたくさん貯金しておいてねー!!

南信濃幼児低学年班 小1女子母親

活動に参加する前は、食事の時のごはんの茶わんに米つぶがついていても、「ごちそうさま」と言つて終わらせようとするのが娘の実態でした。売木から帰つてきてからは、米つぶ1つ残さず食べるようになりました。今の子ども達のはやりの言葉で表現するならば、「ありえない!!」といったかんじです。おまけに両親

のお茶わんにもチェックが入ります…。

「明日娘が帰ってくる」という前日、夫と二人で、どんな様子ですごしてきたのかを、どんな言葉で聞くのが一番よいか、という話になりました。きつと楽しく過ごしてきたら、おしゃべりな娘ですので、活動してきたことを自分からどんどん話すだろうし、もしもホームシックになつていたら、きつと何を聞いても「楽しかった」としか言わないだろう（参加させてもらったのに、いいえといつたらいけないかも、と思つてしまう遠慮がちなところがある）と考えました。

さて、帰宅した娘の様子は!! 夜寝るまで、育てる会でやつてきたこと、お友達のお話、リーダーのこと、ずつとしやべりっぱなしでした。

そこで一言、「来年も行きたい?」「いくいく!! ママたくさん貯金しておいてねー!!」

親は子どもに

つらいことはさせないように…

やさか山村1期 小3女子母親

お天気に恵まれ、真つ赤に日焼けして帰ってきました。楽しかった思い出をあれこれ話してくれませんが、盛り沢山の内容に驚きました。都会の生活では経験できないことが多くありますが、育てる会に出会えて幸運だったと思つて、感謝しています。

Q 「一番楽しかったのは?」

A 「…全部! でも一番はやっぱり山登りかな」

親はなるべく子どもにつらいことはさせないようにしてしまいますが、やはり体をたくさん使うことが大事なんだなあと思います。

大好きなリーダー達にお世話になりました。

育てる会にはきちんとした理念があり、商業主義的ではない所が気に入っています。活動も子どもの成長に合わせてレベルアップできるので、今年はコレ、来年は、再来年は…と夢ふくらみます。

● 日記にみる子どもたちの夏の体験

* やさか幼児低学年班

・はじめおやなしで このようなばしよで さいしよは きたくなかつたけど きたら おもしろかつたです。これから いつかかん いっしょに とまるのも わるくないとおもいます。

・きょうは、はたけでおいじさんとおばあさんが、おもしろいナスをみせてくれたよ。おにんぎょうみたいなやつとか、かいみたいなかたちでした。

* やさかやまびこ班

・きょうは、キャンプではんごうすいさんをしました。カレーにしていたべると本当においしかったです。よるには散歩に行きました。夜のおいや音がきこえて楽しかったです。あしたは自由活どうが楽しみです。

・今日はやさいのしゅうかくと、じゅうかつどうをやりました。やさいは、すごい水みずしくておいし

かつたです。じゅうかつどうは、虫とりにしました。虫はいっぱいとれて、いちばんレアなのは、とんぼでした。

・今日は湖でおよぎました。つめたかつたです。でも、すこしずつなれてきました。リーダーに水をいっぱいかけてもらいました。おもしろかつたです。

* やさかチャレンジ班

・今日は雨だったので、サバイバルキャンプが消えました。なのに、それよりきつい登山、ロッククライミングなどをしました。その後、はんごうすいさんやピザ焼きなどをしました。私はピザのかまの火を担当しました。マッチで火を付けて、木を入れて空気を送りました。だんだんけむりが出てきて頭がいなくなってきました。でも、ピザはとってもおいしかったのでよかつたです。

再掲載を受けて――

「短期山村留学

二年ぶりの実施に向けて」

秋山 雅光（育てる会 東京本部）

今号では、過去に参加した子どもたちや保護者の感想を、ほんの一握りですが抜粋してご紹介しました。

子どもたちは素直に感じたこと、見たこと、考えたことを表現しています。また一方で、保護者の方々は、活動を通して感じた我が子の成長と新たな一面への驚きや感動とともに、ご自身の記憶やこれまでの子育てについて振り返っているようにも思えます。

私自身も、数多くの感想に触れることで、あらためてこうした活動がもたらす多様なものを実感しています。そして、今年の夏休み活動を成功させるぞというやる気が、心の内から湧いてきています。

さて話は変わりますが、タイトルにある「短期山村留学」という呼び名について、読者の皆さんはご存じで

でしょうか。ここ最近では「自然体験キャンプ」と題していますから、もしかしたら聞き慣れない読者の方もいるかもしれませんが、夏冬春休みや週末の活動のことを、育てる会では短期山村留学と位置付けています。

第一回短期山村留学は、昭和四十四年の夏、長野県の旧八坂村で開催され、その活動は「育てる村」と呼ばれました。この短期山村留学には毎年多くの子どもたちが参加し、以来新型コロナウイルス感染症による二年前の中断まで、途切れることなく五十年あまり継続してきました。

一方、育てる会のもう一つの山村留学は、一年間子どもたちを預かり、自然豊かな地域で集団生活やホームステイをしながら地域の小中学校に通学し、四季を通して様々な体験を積む「長期山村留学」です。

短期山村留学に参加した子どもたちや保護者の要望によつて昭和五十一年に制度化され、今では一般的に「山村留学」と呼ばれて全国各地に広がっています。

全国各地の山村留学地では、主に長期が実施され、短期を実施している箇所はあまり多くありません。しかし私たち育てる会では二つの山村留学があることが大切と

考えており、それが大きな特徴であり強みだと思っています。短期だけ、長期だけでは駄目なのです。

短期山村留学では、全国各地の子どもたちにアプローチすることが出来ます。また、実施に際しては多くのボランティアが駆けつけてくれ、更に大きな広がりとなつて会を支えてくれます。そして何よりも、参加するのは年長から高校生、保護者と世代も様々で、前段の感想文のように、そこには多様な学びがあります。

一方で長期山村留学は、募集人数等から限られた子どもたちへのアプローチにはなつてしましますが、一年間という圧倒的な時間の中で、一人ひとりが個々と向き合い、日々仲間や地域と繋がりながら、より深い学びを積んでいきます。

山村留学は「留学」ですから、何か学びがなくてはなりません。これは短期も長期も同じです。ここで言う学びとは「体験から得られるもの」という意味ですが、山に登った・ジャガイモを掘った・釣りをしたという体験そのものが学びになる子や、一年をかけて何かに打ち込み、失敗を乗り越えて工夫したことで学びを得る子など様々です。

つまり学びには、内容や時間・量的な優劣はなく、その子自身がどう受け止めて吸収し、次に生かしていくかが大切なことなのです。そのため育てる会では、短期も長期も同じように大切にし、取り組んでいます。

ここ数年は新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックにより、短期山村留学のほとんどが中止を余儀なくされ、その間に失われた多くの学びのことを思うと残念でなりません。それでも、活動実施に向けて参加者を募集すれば、毎回多くの子どもたちが申し込みをしてくれます。

長期山村留学は、日々の感染対策や保護者の来園制限など、普段通りとはいかない苦労もありますが、地域や学校の理解のもとで継続することができました。

しかし、やはり長期山村留学だけでは、育てる会の考える教育運動としての目的は達成できません。

この夏も、実施に向けて募集を開始しました。今年こそはいつもの夏に戻るよう、心より願つてやみません。